

「自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成」～小中連携を通して～  
平成 25 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 四万十市立八東小学校  
四万十市立八東中学校

## I 学校における背景、問題意識

近い将来必ず起こるとされる南海トラフでの巨大地震。太平洋沿岸に位置する四万十市では地震による揺れだけでなく、津波による甚大な被害が想定される。なかでも本市南部の四万十川沿いの八東地区にある八東小学校は、海拔 5.9m、海岸からの距離が 3km 程度という立地であり、本市地震津波対策アドバイザーである、独立行政法人建築研究所 特別客員研究員の都司嘉宣 先生によれば、東日本大震災において多くの児童が犠牲となった大川小学校に立地条件が酷似しているとも指摘されている。また、同地区内にある八東中学校についても、海拔 3.8m、海岸からの距離が 3km 程度と、津波による浸水が想定される立地であり、地域を挙げた早急な防災教育が必要とされる。

そこで平成 25 年度、両校で「高知県実践的防災教育推進事業」を受け、「自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成」を防災教育目標に掲げ、「自分の命は自分で守る児童生徒（自助）」、「人を思いやり助け合える児童生徒（共助）」の姿を目指して、小中で連携しながら取り組んだ。

## II 取組のポイント

～小中連携を通して～

- ◆自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成に向けた、指導方法の研究開発
- ◆災害発生時に、自分の命は自分で守ることをめざして、地域と連携した取組を実施（避難訓練、講演会等）
- ◆児童・生徒の防災意識の向上について、実態やアンケート調査から、課題や改善方法等を検証
- ◆新想定に対応する危機管理体制や学校防災マニュアル等の見直し

- ◆本事業の成果について市内小中学校で共有し、各校の防災教育の推進の指針とする→研究発表会（公開授業）等による成果発表

## III 取組の概要

### 1 防災教育の目標等

#### 【八東小学校】

##### <防災教育目標>

子どもたち自らが実現する減災学習  
～子どもの自治力を高める取組～

##### <防災教育における目指す児童像>

- ・自分の命は自分で守れる子ども
- ・防災についての基礎的・基本的事項を理解できる子ども
- ・いのちを大切に、ふるさとを愛する気持ちを持った子ども

#### 【八東中学校】

##### <防災教育目標>

自他の生命を大切に、地域の一員として考え・判断し・行動する生徒の育成

- ・人間としてのあり方、生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに、他者に対する思いやりや助け合いの心を育てる。
- ・災害の自然的・社会的要因をつかみ、災害への備えについて考える。
- ・災害から生命を守るために必要な能力や資質の向上を図る。
- ・自主的に行動し、正しく状況判断ができる力を養う。

### 2 小・中学校連携の取組内容

(1) 自ら考え判断し、行動できる児童生徒の育成に向けた、指導方法の研究開発

#### ①小中合同研修会（7月24日）

県教委学校安全対策課を招聘し、実践的防災教育の方向性と取組について学ぶ

小中学校合同の研修会を開いた。小中連携した今後の取組内容について協議を行った。

## ②小中共同の授業研究・発表

公開授業に関し、可能な限り小中教員双方が互いの授業を見学し、小中で一貫した防災教育の推進についての研究を行う。

### 【公開授業①中学校全校（10月16日）】

#### 学級活動「情報の正しい理解と活用」

ねらい：地震や津波から主体的に避難行動がとれるように、防災に関する情報の知識を身に付け、活用できるようにする。



### 【公開授業②小学校4年（10月30日）】

#### 学級活動「地震の揺れから身を守るには」

ねらい：大地震発生時に学校内の様々な場所で予想される危険を考え、自分の身を守るためにはどのような行動をとればよいかを話し合うことを通して、あらゆる場面での避難訓練にもつながる判断力と行動力を身に付けさせる。

### 【公開授業③中学校全学級（11月20日）】

#### 1年道徳「天使の声」

ねらい：人間のもつ美しさ気高さを信じ、誇りある崇高な生き方を実現しようとする心情を育てる。

#### 2年学級活動「地域の災害への備え」

ねらい：避難所での生活に必要な物を考えさせ、地域の防災対策への関心を高めさせる。

### 3年学級活動「いざという時、動ける人になるために」

ねらい：応急手当の意義を理解し、実習を通して状況に応じた対応のための判断の基礎を身に付けさせる。

### 【小中合同研究発表会（1月24日）】

実践の披露と防災教育の啓発をねらいとした研究発表会を、小中合同で開催した。

#### ・小中とも全学級の公開授業

#### 〈小学校：学級活動 題材名〉

1年：「こんなとき、どうする？」



2年：「ゆれがおさまっても・・・まだ続く危険とは？」

3年：「休み時間に大地震が起きたら」

4年：「家族の絆」

5年：「非常持ち出し袋の中身を考えよう」

6年：「避難生活で、できることを考えよう」

くすのき：「防災ゲーム」

#### 〈中学校：学級活動 題材名〉

1年：「その時、あなたはどのようにしますか？～地震が起きたときに～」

2年：「備えて安心！～家族の安全対策～」

3年：「災害後の暮らし、わたしたちにできることは？」

・児童生徒の防災マップを活用した発表

・講演『「釜石の奇跡」と呼ばれた子どもたち』（渡邊真龍 釜石小学校長）

### ③地区フィールドワーク・防災マップ作成

八東地区は太平洋沿岸に近い四万十川沿いに位置するため、地震、津波が発生した場合はほとんどの地域が浸水する可能性がある。児童、生徒自身が地域の状況や避難場所をよく知り、自主的に避難行動がとれることが望まれる。

そこで、小学5・6年児童と中学生が合同の地区別の班をつくり、地域を知る地区フィールドワーク、調べたことをまとめる防災マップ作成、気づきや考えの発表までの一連の流れで、小中共同学習を展開した。

#### 学習計画（総合的な学習の時間）

##### (1)防災学習オリエンテーション

全校児童・生徒の避難場所の確認（1時間）



小1～中3が地区毎に集まり避難場所を確認し合い、名簿を作成する。

##### (2)地区フィールドワーク事前学習（1時間）

フィールドワークの準備（小5・6年・中全）やり方、何を調べてくるか話し合う。

##### (3)地区フィールドワーク（2時間）



避難経路、避難場所の状況を調べる。

##### (4)調べたことの整理（2時間）



フィールドワークで調べたことを、危険な場所や安全な場所、防災設備等に整理。感想を出し合う。

##### (5)地区別避難マップの作成（2時間）



全校児童の自宅の位置にシールを貼り、危険箇所を考慮しながら、避難場所に早く安全に避難できる経路を考える。

##### (6)発表の練習（1時間）



(7)発表（1時間）



防災教育研究発表会に参加してくださった方（保護者・地域・関係機関・学校教職員等）に向けて、小学5・6年と中学生が共同で発表。小学4年以下の児童に対しては、各児童の自宅の位置と避難場所、避難経路や注意点などを分かりやすく伝えるように心がけた。

(2) 実践的な避難訓練の実施

小規模校であり、近接する八束小・中学校では、合同での行事（小中合同運動会、ふれあい文化祭）に加え、中一ギャップ解消に向けて、年間を通して授業や行事での交流を行っている。そのため、小・中学校それぞれの避難経路、避難場所を確認しておくとともに、人数が多い中でも速やかに行動する必要がある。

そこで平成25年度は、次のような年2回の小中合同での避難訓練を実施した。

①第1回小中合同避難訓練（小中合同運動会練習中の訓練）

<実施日時> 9月10日（水）  
10:20～11:00

<地震発生時の場所・状況>

八束中学校運動場で運動会の行進練習中

<避難場所> 四万十川大橋



中学生がリーダーシップをとり地区毎に整列。



<振り返り>

- 出口が狭く混雑したが、「押すな」「並んでいこう」など中学生の声かけがあり、スムーズに移動できた。
- ほとんどの児童、生徒が一生懸命走っており、早く避難できていた。
- 「もう少し」「がんばれ」という中学生の励ましの声かけがあった。
- 確認通り中学生（生徒会執行部）が小学低学年の児童を整理させ、整然と集合して待機できた。

△おしゃべり、笑っている児童生徒がいた。

<今後に向けての確認事項>

- ・特別支援が必要な児童の避難方法
- ・避難経路の常時整備（草刈り、枯れ葉掃除）
- ・中学校運動場の出口扉の整備
- ・教師の役割は一人一役

②第2回小中合同避難訓練（緊急地震速報を活用した訓練）

<実施日時> 11月29日（金）  
10:15～10:40

<地震発生時の場所・状況>

小学校：長休み時、運動場で遊んでいる  
中学校：1・2年は教室、3年は理科室で授業中

<避難場所> 天満宮



上級生について必死に走る。

<振り返り（中1生徒の感想より）>

今日の避難訓練では、土手を通って避難場所に向かいました。理由は、建物がくずれる場合があるし、自動販売機が倒れてきて道をふさぐと思ったからです。自衛隊の佐藤さんが言ったように、もし、津波が来た時に下を通った場合、津波に気付かずのみこまれてしまうと思ったから土手から避難しました。



水の量や口を結ぶ時のポイント等、中学生のリーダーの話聞きながら取り組む。

みんなで試食。きちんとおいしく炊けていてびっくり。



整然と集合し、訓練を振り返る。

(3) 保護者や地域と連携した取組

①ふれあい文化祭

毎年11月には、地域や保小中合同の文化祭を行っている。昨年度より、防災講演を組み込み、地域の方々や保護者、児童生徒が皆で講演を聞くことで防災意識の高揚を図っている。また、昨年度は地域のお母さん方を中心に炊き出しの練習と試食を行った。平成25年度は中学3年生をリーダーに、ビニール袋（ハイゼックス）を使って児童、生徒たちでご飯を炊く訓練を行った。地区別班で子ども同士が関わり合い、協力して取り組む姿が見られた。

<講演>『東日本大震災における自衛隊の活動状況（命の大切さ）』

講師：宇郷武昌 自衛官

宮城県石巻市での救護活動の経験についてお話をうかがった。

<炊き出し訓練>

ハイゼックスを利用した炊き出し訓練



②校区一斉「災害用伝言ダイヤル（171）」による情報伝達訓練

災害が発生した際の児童生徒の安否情報を提供するための訓練として、NTTによる災害用伝言ダイヤル（171）を用いた情報伝達訓練を小中合同で呼びかけた（下図参照）。内容は、「9月15日の運動会の開催・中止」について録音されたメッセージを保護者が聞くというもの。毎月15日は「171体験日」となっており、「171」の周知をねらい、実施した。

平成 25 年 9 月 1 3 日

保護者・地域のみなさんへ

四万十市立八東小中学校  
校長 小島 江代  
山本 博一

**校区一斉「災害用伝言ダイヤル(171)」による情報伝達訓練について**

夏休みも終わり、学校には児童・生徒の元気な姿が戻ってきました。日頃は、本校の教育活動にご理解、ご支援を賜りありがとうございます。

さて、八東小中学校では、運動会を行う9月15日（日）に、防災教育の一環として、災害が発生した際、生徒の安否情報を提供するための訓練として、NTTによる「災害用伝言ダイヤル（171）」を用いた情報伝達訓練を、下記の要領で実施することにしました。

つきましては、「災害用伝言ダイヤル（171）」による情報伝達訓練にご参加くださるようお願い致します。

また、「災害用伝言ダイヤル（171）」によるメッセージの確認方法は、裏面をご覧ください。

記

◆災害用伝言ダイヤル（171）による情報伝達訓練について

(1) 情報提供の日時 平成25年9月15日（日） 6：00～8：00

(2) 訓練の内容 お家の方には、「運動会の開催・中止」について録音されたメッセージを再生のうえ、確認をお願いします。

(3) その他 ①メッセージは携帯電話からも聞くことが出来ます。  
②お使いの電話番号から八東小中学校までの通話料が発生します。各自ご負担をお願いします。  
③八東小中学校への伝言（録音）には対応致しかねますので、録音しないようにしてください。

\* 再生の仕方が分からずメッセージが確認出来ない方は、直接学校へ連絡して下さい。  
\* 状況によって、多少、時間は前後することがあります。ご了承下さい。

問合せ先：八東小中学校  
(担当：八東小・二階 八東中・高橋)  
TEL 八東小 0880-36-2001  
八東中 0880-36-2002

【校区一斉「災害用伝言ダイヤル（171）」による情報伝達訓練の案内】

## IV 成果と今後の取組

### 1 成果

#### ①防災意識アンケート調査から

- 地震によりどのようなことが起こるのか、住んでいる地域で起こり得る被害はどのようなものがあるかなど、特に突然の発生によりパニックに陥る可能性のある低学年において、知識が増えたことは大きな成果である。【小学校】
- 自分で判断して、強い揺れから自分の身を守ることができるかと答えた児童が増えた。【小学校】
- 屋内にいる時に強い揺れから身を守ること、校区の広い本校において自転車通学時の避難行動についてできるようになったことは成果である。【中学校】
- 地震発生後に周りの人の安全のために具体的な行動がとれると答えた生徒が増えた。搬送方法や救急手当も学習した成果である。【中学校】

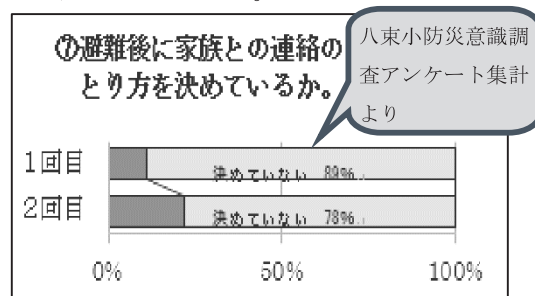
#### ②小中連携を通して

- ふだんとは違った場所や人数、状況下での合同避難訓練は避難可能な場所や範囲、経路の把握や小中の教員が各学年の児童、生徒の状況を見る上でも有効であった。
- 避難訓練や活動の中で下級生は上級生についていこうとする姿、上級生は下級生に気を配る姿が見られた。特に中学3年生は小中のリーダーとしての自覚も生じ、積極的な行動につながっていった。
- 地区別で活動を行うことで小中での子ども同士の関わり合いが深まり、子どもたち同士が互いを知り合うよい機会になった。地域に知ったお兄ちゃん、お姉ちゃんがいることは安心感につながる。
- 児童、生徒、そして教員自身が防災の視点から地区を見ていくことで、より地域を知ることができた。

### 2 今後に向けて

- 小中9年間で繰り返し行う必要がある学習と小学6年間、中学3年間で系統的に学習すべき内容を整理し、定期的に継続的に防災学習が行われていく体制を整えていく。

- 小・中学校ともに、避難後の連絡方法や集合場所など家族との話し合いが不徹底であることが明らかになった。また、各家庭においても地震に対する備えはまだまだ弱いと感じる。次代を担う子どもから地域・家庭への啓発をもっともっと促していきたい。



- 防災の視点からも、児童、生徒に日頃の生活を見つめさせていく。
  - ・時間を守って規則正しい生活をする
  - ・あいさつをして日頃からコミュニケーションをとり、友だちをつくる
  - ・だれとでも一緒に協力してやること、がまんもすること
  - ・運動をして体力をつける
  - ・言われたことを守ること
  - ・小さい子を助けること 等

### 3 まとめ

小中それぞれで、あるいは合同で様々な防災学習を積極的に推進する中で、子どもたちの真剣に取り組む姿や助け合う姿、上級生としての責任感・下級生を労る姿が見られ、人間性・道徳性の高まりを感じるとともに、災害に関する正しい知識と的確な判断力を身に付けつつあると実感している。そして、「想定にとらわれない」「最善を尽くす」「率先避難者となる」・・・釜石の子どもたちが防災教育によって身に付けていた力が、両校の子どもたちにも確実に備わってきていると信じている。

今後はこの取組で得た成果をもとに、防災に対する確固とした意識を小中の職員で共有しながら、より実践的な防災教育の推進に努めていきたい。10年後、20年後を見据え、地道な取組を継続していくことこそが「未来の防災リーダー」を育て、八東地区全体の防災文化を高めていくことになる。